

前回までの会議における課題（困りごと）等に対する検討について

No.	事項	御意見等の要旨	参考
1	効率アップセンター	相談件数が低調 （御提案のあったアイデア） ・情報の伝え方を工夫 ・保険者が研修参加事業所とPR ・初歩的なことも質問してもらえるようにする	介護業務効率アップセンターのホームページについて、事例集や介護事業所からの質問をまとめたQ&Aを掲載するなど、事業所が困ったときにいつでも活用できるようにするとともに、内容が分かりやすく充実しているものとなるよう、現在改修を行っております。 情報の伝え方については、令和7年2～3月に実施した「千葉県内介護サービス事業所の業務改善に関するアンケート調査」の結果等も踏まえて検討してまいります。
2	市町村や関係課との連携	・県の支援内容を知ってもらうために、この支援を活用するとこのようなメリットがあるということが分かりやすくまとまっている資料があると有益だと思う ・地域リハビリテーション支援体制整備推進事業では高齢者施設向けの研修も行っているが、そうした場を活用したセンターのPRなど、庁内他事業との連携を検討してほしい	介護事業所向けに県の支援策や相談先、活用メリットなどが分かりやすくまとめた資料の作成や、事業所と県・市の接点を把握した上で、それを活用した効率アップセンターの周知について検討してまいります。 また、介護テクノロジーと関連した介護の魅力発信等について、「介護の未来案内人事業」等との連携を担当課と調整しております。
3	介護ロボット等のテクノロジーの導入	・試用貸出と導入までのタイムラグにより、職員の機運が下がってしまう	試用貸出から導入までの間にどのような事前準備が必要かまとめた上で、介護テクノロジー導入の一連のプロセスを周知します。 このことについて事業所から効率アップセンターに相談等があった場合は、上記のプロセスを踏まえながら丁寧に対応してまいります。
4	介護ロボット等のテクノロジーの導入	・失敗の原因も含めた導入の取組の事例が分かると有益	昨年度業務改善研修に参加した事業所向けの2年目研修を実施し、1年目に一部つまずきがあった事業所等を支援するとともに、それ以外の相談支援等も実施する中で、事例の収集に努めます。
5	ケアプランデータ連携システム等の業務のデジタル化	・複数の事業所で同時期にケアプランデータ連携システムを導入しないと意味がないので導入が進まない （在宅の小規模事業所など、ICTという言葉に苦手意識を持ってしまっている事業所も少なくない）	令和7年度から業務改善研修に居宅サービス事業所向けの募集枠を設定したほか、モデル介護事業所の養成事業として地域の居宅介護支援や訪問介護の事業所に対して支援を開始しました。 市町村と連携してそれらの取組を周知し、業務のデジタル化による業務改善の機運醸成を図ってまいります。 なお、モデル介護事業所の養成事業を実施している圏域に所在している事業所を主な対象としたケアプランデータ連携システムの説明会の開催を計画し、当該システムによる業務改善の周知を行う予定としております。
6	介護業界のイメージ向上・人材確保・定着促進	・シンプルなものでも良いので機器の利用により働きやすい職場が整備できれば人材確保に繋がると思う （一方で、職員の指導が不十分になり、介護の質が下がらないよう注意する必要がある）	千葉県福祉人材センター等と連携して業務改善の機運醸成と介護の魅力発信を図ってまいります。 職員の指導に関しては、業務改善の7つの打ち手における「OJTの仕組みづくり」、「理念・行動指針の徹底」等が対応策の一つとなり得ることから、そうした取組により現場の課題解決を図る事業所を支援してまいります。